

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	イギリス近現代史における労働党(その1)										
【授業の概要・目的】											
今年度の授業では、1900年に設立され、第一次世界大戦後には保守党と並ぶ二大政党の1つとなる労働党に焦点を合わせてイギリスの近現代史を再検討する。政治史的な考察が主軸にはなるが、社会史的・文化史的な視点も導入したい。前期開講の「その1」では、労働党設立の直接の前史となる1880年代から初の多数派政権を成立させる1945年までを扱う予定である。後期開講の「その2」も併せて受講することが望ましい。											
【到達目標】											
政党政治史の文脈において労働党が果たした役割ばかりでなく、広く労働者階級が20世紀イギリス社会の形成にいかに関与してきたのかまで視野に収めて、「労働」の視点からイギリス近現代史を把握する能力を身につけること。											
【授業計画と内容】											
以下に掲げたテーマの各々につき、1～3回程度の授業を充てる予定である。 (1) イントロダクション (2) 前史(社会主義の復興、新しい労働運動) (3) 労働代表委員会 (4) ニュー・リベラリズムと労働党 (5) 第一次世界大戦から第一次労働党政権へ (6) ゼネストから第二次労働党政権へ (7) 世界恐慌と挙国内閣 (8) 第二次世界大戦から1945年総選挙へ (9) その他											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照することが望ましい。

セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。

ピーター・クラーク(西沢・市橋・椿・長谷川訳)『イギリス現代史、1900～2000』名古屋大学出版会、2004年。

(その他(オフィスアワー等))

後期開講の「その2」と合わせ、通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。